

諸五山清衆可勤修焉云々、

〔碧山日録〕寛正二年四月十日戊辰、以源相公命、相國寺一衆、率其派等持寺、等持院、眞如寺之衆、於四條坊橋上、開施食會、以蕉饑疫死亡之靈、

〔如是院年代記〕寛正二年辛巳、自舊冬至、夏、諸國人民餓死、來于京城死者、不知數、爲彼亡魂、於四條五條橋上、諸五山輪番大施餓鬼、

〔謠曲〕熊野

四條五條の橋の上、老若男女貴賤都鄙、いろめく花衣、袖をつらねて行末の、雲かと思えて八重一重、咲く九重の花ざかり、名におふ春の景色かな、

〔祇園執行日記〕天文二年五月十五日、橋ナガレ候トテ、當社三本カ、四本カ、キリ候ナリ、廿二日、水出候テ橋板二三ゲンヲチ候由申也、鳥井ノ方ヲチ候也、

〔醒睡笑一貴人之行跡〕信長公にたいし、公方義昭御謀叛の時節、略中上京に火かゝると見て、二條

に候ひし者の妻、まづ我子をさへつれてのけばすむと思ひ、三ツ四ツなる子をせなかにおひ、はしりふためき、四條の橋のもとまでにげきたり、あまりくるし、ちと子をおろしてやすまんとおもひ、地のうへにだうとをいて見れば、石うすにてぞ候ひける、

〔信長公記十一〕天正六年五月十一日、巳刻より雨つよく降、十三日午刻迄、夜日五日雨あらくふり、續洪水生便敷出候て、賀茂川、白川、桂川一面に推渡し、略中村井長門新敷被懸候、四條之橋流れ、下

略

〔十三朝紀聞後光明〕正保二年十一月、先是、幕府修五條石橋、略中古者鴨川諸橋中、五條七條石造、至

應仁猶存、其後京師久亂、諸橋概廢、及天正中秀吉東征、發京師、徙四條橋于三條、五條橋于坊門、修之云、